

科目分類	助産学実践科目 実践・関連		開講時期	1年 前期	
授業科目	周産期における診断方法と診断技術				
選択/必修	必修	単位数(時間数)	1単位	15時間	授業形態 講義
担当教員	住本 和博				
メールアドレス	k-sumimoto@tsuruga-nu.ac.jp	オフィスアワー	授業前後		

到達目標	<p>1) 産科領域で用いられる各種診断法を説明できる</p> <p>2) リプロダクションに関連した検査について説明できる</p> <p>3) 妊娠・分娩時の胎児モニタリングの評価ができる</p>
授業概要	<p>妊産褥婦のニーズの多様化に伴う周産期医療における助産師の基礎的能力を養うため、妊婦健診に用いるME機器の原理と操作法、リプロダクションに関連した検査法(妊娠前・後の検査)を理解するとともに、妊娠・分娩時の胎児異常の早期発見に必要な胎児モニタリングの基礎的な知識を養う。</p>
授業内容	<p>第1回 妊娠前・妊娠後の検査</p> <p>第2回 助産に関係するME機器 原理と機能について</p> <p>第3回 妊娠期の助産診断に必要な検査法</p> <p>第4回 超音波診断 使用方法など演習も含む</p> <p>第5回 胎児心拍数モニタリング 機器の装着など演習も含む</p> <p>第6回 胎児心拍数モニタリングによる母児評価</p> <p>第7回 周産期における診断の実際と応用(経過観察症例)</p> <p>第8回 周産期における診断の実際と応用(迅速な対応を要す症例)</p>
教科書・参考書等	<p>教科書: 医学書院</p> <p>助産学講座2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 第6版</p> <p>助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第6版</p> <p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 第6版</p>
成績評価基準・方法	試験 100%
履修要件	履修要件ではありませんが、配付資料はファイリングし、臨床実習時に役立ててください。
留意事項・その他	<p>分娩介助の実習では、ME機器を用いたリアルタイムの母児評価が必要になりますのでよく理解し、しっかりとこの知識を身につけてください。</p> <p>本科目を修得していないと、助産学実習ⅠⅡⅢⅣは履修できません。</p>